

私費外国人留学生の特徴
—アルバイトに関する意識実態調査から—
Characteristics of privately financed international students
using a questionnaire of part-time employment

伊藤 春子, 比留間 洋一¹

Haruko ITOH, Yoichi HIRUMA

I. はじめに

近年、国内の高等教育機関および日本語教育機関に在籍する外国人留学生数は増加の一途を辿っている²。一方で、日本における外国人労働者数は約 128 万人となり、うち 259,604 人 (20.3%) は「資格外活動 (留学)」を持つ外国人留学生 (以下、留学生) が占め、サービス業や卸売業・小売業界の人手不足を留学生が補っている実態が明らかになっている³。また、JASSO が行った「平成 27 年度私費外国人留学生生活実態調査」³⁾ によると、回答者の 74.8% がアルバイトに従事していると回答している。

産業界から留学生に対する労働需要があり、また、留学生側にもアルバイトに対する需要があるなかで、コンビニエンスストアや飲食店でアルバイトをする留学生が一般の人々に広く認知されるようになった。同時に、一部の外国人留学生に対し、「出稼ぎ」を目的とした「偽装留学生」化しているという報道等も度々見られるようになってきている。

他方、志甫 (2015)⁴⁾ は、留学生のアルバイトについて、「留学生に対する労働需要があり、さらに在学中に働けることが留学生を惹き付ける要因になっていることを、まずは理解する必要がある」と指摘した上で、「働いて金銭を得られる環境を提供し、できれば将来のキャリアに繋がるような仕事・環境を用意する必要があるだろう」(p.112) と述べている。また、「日本再興戦略 2016」⁵⁾ では、外国人留学生の日本国内での就職率を現状の 3 割から 5 割に向上させることが目指されている (p.207)。これらから、日本における留学生研究においては、アルバイト経験の内実やアルバイトに対する留学生自身の認識をこれまでよりも深く理解することが重要だといえよう。

本稿では、東海地方の大学に在籍する私費留学生を対象に行ったアルバイトに関する実態調査の結果から、私費留学生のおかれている状況とアルバイトの実態、アルバイトに対する留学生自身の意識、また、日本語学習との関わりを分析する。それにより、留学生に対する理解を深めるとともに、留学生支援策の充実を図る資料とすることを目的とする。

¹ 静岡大学 国際連携推進機構 特任准教授 (元 星城大学 リハビリテーション学部 准教授)

² 独立行政法人日本学生支援機構 (以下、JASSO) が発表した「平成 29 年度外国留学生在籍状況調査結果」によると、平成 29 年 5 月 1 日現在の外国人留学生数は 267,042 人となり、過去最高を記録している¹⁾。

³ 平成 30 年 1 月に厚生労働省が発表した「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ (平成 29 年 10 月末現在)」²⁾によると、留学生が従事する主な産業は、「宿泊業、飲食サービス業」(91,407 人 : 35.2%)、「卸売業・小売業」(56,335 人 : 21.7%) である。

Ⅱ．アルバイト実態調査の概要

東海地方の大学に在籍する留学生に対するアルバイト実態調査の概要は次の通りである。調査実施期間は平成 29 年 9 月 19 日～20 日で、質問紙（日本語）による無記名式のアンケート調査を行った。調査対象者は、「留学」の在留資格を有する 1～4 年次の私費留学生 131 名⁴である。調査に先立ち、本調査の目的と研究倫理に関する事柄について日本語で説明し、調査協力に同意した留学生から回答を得た。有効回答者数は 94 名（71.8%）である。なお、本調査は、星城大学研究倫理委員会の審査を経て、実施したものである⁵。調査項目⁶は、属性、日本について、アルバイトに関する基本情報、アルバイトの勤務状況、アルバイトに対する満足度、アルバイトに対する意見であり、本稿ではアルバイトの勤務状況、満足度等を中心に単純集計を行い、その特徴を分析する。

Ⅲ．調査結果と分析

（1）回答者の属性

本調査の有効回答者 94 名の出身国（地域）は、表 1 の通りである。回答者の 6 割が非漢字圏出身者（ベトナム、ネパール、モンゴル）であった。また男性回答者に比べ、女性の割合が約 3 割高かった。

表 1：回答者の性別の出身国・地域（単位：人、括弧内は%を指す）

回答者数	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	計
男性	7	1	2	14	5	4	33(35.1)
女性	21	4	2	24	0	10	61(64.9)
計	28(29.5)	5(5.3)	4(4.2)	38(40.0)	5(5.3)	14(14.7)	94(100)

学年別回答者数は、1 年生 35 名（37.2%）、2 年生 26 名（27.7%）、3 年生 16 名（17.0%）、4 年生 17 名（18.1%）である。また、回答者の平均年齢は 22.9 歳で、在日期间は、「2 年～3 年未満」が 26 名（28.0%）、「3 年～4 年未満」が 23 名（24.7%）、「1 年～2 年未満」が 22 名（23.7%）と続いた。「1 年～4 年未満」の回答者が約 8 割を占めているのは、本調査の回答者の約 7 割が 1、2 年生であったことによるものと思われる。回答者の居住地は、地方都市市内が最も多く、69 名（74.2%）で、次いで大学所在地の市内 21 名（22.6%）、その他 3 名（3.3%）である。

表 2 は、同居人の有無を示している。回答者のうち、同居人のいる留学生は 58 名（62.4%）、単身留学生は 35 名（37.6%）で、同居人のいる留学生が単身留学生の約 2 倍を占めた。特にベトナム、モンゴル、ネパール、台湾出身者の同居率が高かった。なお、同居人の内訳は、「留学生」（29 名：50%）、次いで「配偶者、家族・親戚」（23 名：39.7%）となっている。JASSO（2016）の平成 27 年度調査では、同居者のいる割合は 49.8%、単身者の割合は 49.2%であったため、本調査回答者は全国平均に比べ同居率が高く、また、「配偶

⁴ 131 名の性別の内訳は、男性 50 名（38.2%）、女性 81 名（61.8%）であった。

⁵ 星城大学研究倫理委員会 承認番号：2017C0003（2017 年 8 月 31 日）

⁶ 本調査票は、JASSO の「平成 27 年度 私費外国人留学生生活実態調査」を踏襲した設問と、アルバイトに関する意識を問う設問（本稿の表 11、12、13）とによって構成されている。

者、家族・親戚」との同居の割合も全国平均（26.3%）より1割程度高かった。

表2：同居人の有無（単位：人、括弧内は%を指す）

回答者数	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	計
あり(同居)	12 (42.9)	3 (60.0)	1 (25.0)	30 (81.1)	3 (60.0)	9 (64.3)	58 (62.4)
なし(单身)	16 (57.1)	2 (40.0)	3 (75.0)	7 (18.9)	2 (40.0)	5 (35.7)	35 (37.6)
計	28 (30.1)	5 (5.4)	4 (4.3)	37 (39.8)	5 (5.4)	14 (15.1)	93 (100)

(2) 卒業後の進路希望

進路希望で最も多かったのは、「日本で就職希望」50名（53.2%）で、次いで「まだ決めていない」20名（21.3%）、「日本で進学希望」8名（8.5%）、「出身国で就職・進学希望」6名（6.4%）、「日本で企業希望」5名（5.3%）と続いた。また、日本で就職した場合の将来の予定は、「日本で働いた後、将来は出身国に帰国して就職したい」31名（36.5%）、「まだ決めていない」27名（31.8%）、「日本で永久に働きたい」21名（24.7%）と続いた（有効回答数85名）。両質問に対し、1・2年生の回答者については、進路未確定の割合が高くなる傾向が見られた。

(3) アルバイトに関する基本情報

表3に、アルバイト従事の有無を示す。本調査においてアルバイトに従事している留学生は84.0%で、JASSO（2016）の平成27年度調査の74.8%に比べ約1割高かった。また、国籍別に見ると、中国、韓国に比べ、台湾、ベトナム、ネパール、モンゴルの出身者のアルバイト従事率が高いことがわかる。

表3：アルバイト従事の有無（単位：人、括弧内は%を指す）

	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	全体
アルバイトをしている	17 (60.7)	5 (100)	2 (50.0)	38 (100)	5 (100)	12 (85.7)	79 (84.0)
アルバイトをしていない	9 (32.1)		2 (50.0)			2 (14.3)	13 (13.8)
不明	2 (7.1)						2 (2.1)
計	28 (29.8)	5 (5.3)	4 (4.3)	38 (40.4)	5 (5.3)	14 (14.9)	94 (100)

また、表4「アルバイトの従事時間」から、ベトナム、ネパール出身者は週20時間以上アルバイトに従事する学生の割合が他国の学生に比べて高かった。

表 4：アルバイトの従事時間（単位：人、括弧内は%を指す）

	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	全体
週 10 時間未満	8 (50.0)		1 (50.0)	5 (13.2)		3 (25.0)	17 (21.8)
週 10～20 時間未満	3 (18.8)	3 (60.0)		3 (7.9)		3 (25.0)	12 (15.4)
週 20 時間以上	5 (31.3)	2 (40.0)	1 (50.0)	30 (78.9)	5 (100.0)	6 (50.0)	49 (62.8)
計	16 (20.5)	5 (6.4)	2 (2.6)	38 (48.7)	5 (6.4)	12 (15.4)	78 (100)

次に、アルバイトに従事する理由（表 5）は、「日本で生活するため」（25.5%）が最も多く、次いで「仕事の経験を積むため」（18.2%）、「日本語の練習をするため」（17.3%）、「学費のため」（15.0%）の順で高く、アルバイトは必ずしも金銭的な目的だけではないといえよう。

表 5：アルバイト従事の理由（複数回答、括弧内は%を指す）

回答数 ※複数回答	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	計
学費のため	4 (8.3)	5 (23.8)		14 (14.0)	2 (16.7)	8 (22.9)	33 (15.0)
日本で生活するため	10 (20.8)	4 (19.0)	1 (25.0)	29 (29.0)	3 (25.0)	9 (25.7)	56 (25.5)
日本人と交流するため	8 (16.7)	3 (14.3)	1 (25.0)	12 (12.0)	1 (8.3)		25 (11.4)
日本語を練習するため	8 (16.7)	4 (19.0)		18 (18.0)	2 (16.7)	6 (17.1)	38 (17.3)
仕事の経験を積むため	10 (20.8)	4 (19.0)	1 (25.0)	17 (17.0)	3 (25.0)	5 (14.3)	40 (18.2)
趣味や遊ぶお金を得るため	8 (16.7)	1 (4.8)	1 (25.0)	7 (7.0)	1 (8.3)	7 (20.0)	25 (11.4)
その他				3 (3.0)			3 (1.4)
計	48 (21.8)	21 (9.5)	4 (1.8)	100 (45.5)	12 (5.5)	35 (15.9)	220 (100)

表 6 に 1 ヶ月の主な収入の平均金額、表 7 に 1 ヶ月の主な収支の平均金額を示す。収入の平均金額は 135,827 円で、支出の平均金額は 114,774 円であった。JASSO（2016）の平成 27 年度調査における「学部正規課程」の平均月收入額、平均月支出額はともに 141,000 円で、「居住地域別平均月收入額」における中部地区の「高等教育機関」在籍者の平均月收入額、支出額はともに 129,000 円であった。本調査回答者の平均月收入額、支出額は全国平均を下回っているが、中部地区の平均額と比較すると、収入額は地区平均を若干上回っており、支出額は下回っている。

表 6：1 ヶ月の主な収入の平均金額(円)

	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	平均
親戚等からの仕送り	63,750	58,000	92,500	31,757	62,000	18,571	45,054
アルバイト	46,429	80,000	12,500	74,211	77,000	69,429	63,053
学外の奨学金	357	0	0	2,842	10,000	14,143	3,894
知人の援助	0	1,800	0	0	0	0	96
配偶者の収入	4,286	0	0	0	18,000	1,429	2,473
その他	2,500	0	25,000	0	0	7,857	3,011
収入合計	131,400	139,800	130,000	132,355	208,750	130,000	135,827

表 7：1ヶ月の主な支出の平均金額(円)

	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	平均
食費	34,231	23,400	23,250	25,132	30,000	13,571	26,033
住居費(家賃・住居費)	26,446	32,600	47,875	22,591	29,000	20,143	25,324
電気・ガス・水道料金	4,643	5,600	8,750	4,211	11,400	8,286	5,596
保険・医療費	1,625	1,750	1,800	4,081	8,600	4,229	3,401
スマホ・インターネット代	5,486	6,400	8,700	7,053	10,000	7,107	6,786
学費・教材・サークル活動	16,720	21,400	16,250	12,352	48,000	22,857	17,981
通学費	4,134	0	10,013	3,880	12,400	2,015	4,213
趣味・娯楽費	13,857	19,400	8,250	5,556	5,000	7,286	9,185
支出合計	120,056	110,200	124,888	102,204	193,000	108,627	114,774

表 8「仕送りの有無」から、本調査では JASSO（2016）の平成 27 年度調査の高等教育機関における 53.9%を上回る 60.6%の留学生が仕送りを受けていることがわかった。一方で、表 6 よりモンゴル、ベトナム出身者は仕送りの平均金額が少なく、アルバイトで収入を賄い、同居することで食費、住居費を節約しているといえる。特にモンゴル出身者のうち仕送りがある留学生は約 3 割にすぎず、アルバイトや奨学金で学費や生活費を賄っている傾向がみられた。

表 8：仕送りの有無（単位：人、括弧内は%を指す）

	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	計
あり	19 (67.9)	4 (80.0)	4 (100.0)	22 (57.9)	4 (80.0)	4 (28.6)	57 (60.6)
なし	9 (32.1)	1 (20.0)	0	16 (42.1)	1 (20.0)	10 (71.4)	37 (39.4)
計	28 (29.8)	5 (5.3)	4 (4.3)	38 (40.4)	5 (5.3)	14 (14.9)	94 (100)

(4) アルバイトの勤務実態と満足度

表 9 に主なアルバイト先を示す。アルバイト先の業種は、飲食業が 46.1%、コンビニエンスストアおよびその他販売店である小売業が 43.5%で、約 9 割を占めている。また、表 10「アルバイトの職種（複数回答）」から、アルバイトにおいて留学生が従事している職種は「接客」が 59.1%、「商品出し」が 20.5%、「製造」が 15.9%で、半数以上の学生が「接客」に従事していることがわかった。一方、アルバイトの選択理由（表 11）は、「自宅に近い」（25.0%）、「日本語が使える」（21.7%）、「時給が高い」（14.2%）、「興味・関心があった」（11.7%）の順となった。飲食業や小売業は自宅に近いだけでなく、仕事を通して日本語が使えるという留学生にとって実利的な背景があり、積極的に選択していることが窺える。その結果、それらの業界の人手不足を留学生が補う形となっているようである。

表 9 : 主なアルバイト先 (括弧内は%を指す)

回答者数	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	総計
コンビニエンスストア	4 (23.5)	4 (80)		13 (36.1)	4 (80)	4 (36.4)	29 (38.2)
その他の販売店	2 (11.8)			1 (2.8)		1 (9.1)	4 (5.3)
飲食店	11 (64.7)	1 (20)	2 (100)	20 (55.6)		1 (9.1)	35 (46.1)
ホテル・旅館						1 (9.1)	1 (1.3)
食料品製造業				1 (2.8)	1 (20)	3 (27.3)	5 (6.6)
その他				1 (2.8)		1 (9.1)	2 (2.6)
計	17 (22.4)	5 (6.6)	2 (2.6)	36 (47.4)	5 (6.6)	11 (14.5)	76 (100)

表 10 : アルバイトの職種 (複数回答、括弧内は%を指す)

回答者数	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	総計(%)
接客	13 (68.4)	4 (66.7)	1 (50.0)	24 (58.5)	4 (80.0)	6 (40.0)	52 (59.1)
商品出し	4 (21.1)	1 (16.7)		6 (14.6)	1 (20.0)	6 (40.0)	18 (20.5)
製造	2 (10.5)	1 (16.7)	1 (50.0)	8 (19.5)		2 (13.3)	14 (15.9)
通訳・翻訳				3 (7.3)			3 (3.4)
その他						1 (6.7)	1 (1.1)
計	19 (21.6)	6 (6.8)	2 (2.3)	41 (46.6)	5 (5.7)	15 (17.0)	88 (100)

表 11 : アルバイトの選択理由 (複数回答、括弧内は%を指す)

回答数	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	総計(%)
興味・関心があった	1		1	10	1	1	14(11.7)
能力を生かせる	3	1		3			7(5.8)
知識や技術を身につけたかった	2			3			5(4.2)
他にアルバイトがなかった				1			1(0.8)
日本語が使える	2	3		20		1	26(21.7)
時給が高い	6			8		3	17(14.2)
大学に近い						5	5(4.2)
自宅に近い	5	1		14	2	8	30(25.0)
学校の紹介				1		2	3(2.5)
友達・家族の紹介	1	4		1	1	1	8(6.7)
その他	2		1	1			4(3.3)
計	22	9	2	62	4	21	120(100)

次に、表 12 に「アルバイトに対する満足度」を示す。表 12 に示す 10 項目について「満足している」から「満足していない」までを 5 から 1 の数値で選択する 5 件法で尋ねたものであり、数値が 5 に近いほど「満足している」ことを指している。表 12 から、アルバイトにおいて満足度が最も高いのは、「日本語を使う量」(4.1) であることがわかる。次いで、「同僚との人間関係」(4.0)、「勤務時間」(3.9)、「休日・休暇」(3.9)、「上司との人間関係」(3.9) であった。

表 12：アルバイトに対する満足度（平均値、括弧内は標準偏差を指す）

	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	全体
賃金・収入	3.7(1.2)	3.2(0.4)	2.0(0.0)	3.8(0.9)	3.0(1.4)	3.9(0.9)	3.7(1.1)
労働時間	3.5(1.1)	4.0(0.6)	3.0(0.0)	3.8(1.1)	2.6(1.4)	4.2(0.9)	3.7(1.1)
勤務時間	3.6(0.9)	4.0(0.6)	3.0(0.0)	4.3(0.8)	2.0(1.3)	4.0(0.9)	3.9(1.0)
仕事の量	3.7(1.0)	4.0(0.6)	1.0(0.0)	3.8(0.9)	3.0(0.9)	3.8(0.9)	3.7(1.0)
仕事内容	3.9(0.9)	3.8(0.4)	1.0(0.0)	3.9(0.7)	3.5(0.5)	3.9(0.8)	3.8(0.8)
休日・休暇	3.2(1.1)	4.0(0.6)	3.0(0.0)	4.1(0.8)	3.4(1.0)	4.5(0.7)	3.9(1.0)
同僚との人間関係	3.8(1.0)	4.6(0.5)	4.0(0.0)	4.1(0.9)	3.2(1.3)	4.2(0.7)	4.0(0.9)
上司との人間関係	3.8(1.0)	4.4(0.8)	4.0(0.0)	3.9(0.9)	3.6(0.5)	4.0(0.8)	3.9(0.9)
客との人間関係	3.5(1.1)	4.0(0.6)	2.0(0.0)	3.9(0.9)	4.0(1.3)	3.9(1.1)	3.8(1.0)
日本語を使う量	3.9(1.0)	3.4(0.8)	5.0(0.0)	4.3(0.7)	4.0(1.3)	3.9(1.2)	4.1(1.0)

また、表 13 は「アルバイトに対する意見」を示している。アルバイトに関する 11 項目について「そう思う」から「そう思わない」までを 5 から 1 の数値で選択する 5 件法で尋ねたもので、数値が 5 に近いほど「そう思う」ことを指す。その結果、「アルバイトは日本語学習に役立っている」、「アルバイトは日本文化の理解に役立っている」（ともに 3.9）、「仕事が楽しい」（3.8）、「仕事量に比べて人手が足りない」（3.0）と続き、アルバイトにおける日本語学習や日本文化理解に対し肯定的な評価が得られた。一方、「賃金が安い」、「精神的にきつい」、「肉体的にきつい」といったアルバイトに対する否定的な項目については 3 を下回っており、アルバイトに対する好意的な姿勢が窺える結果となった。

表 13：アルバイトに対する意見（平均値、括弧内は標準偏差を指す）

	中国	台湾	韓国	ベトナム	ネパール	モンゴル	全体
労働時間が不規則だ	2.3(1.2)	2.6(1.6)	3.0(0.0)	2.7(1.4)	2.6(1.2)	2.2(1.3)	2.5(1.4)
賃金が安い	2.4(1.1)	3.6(0.8)	3.0(0.0)	2.7(1.3)	3.2(1.0)	2.8(1.6)	2.8(1.3)
雇用が不安	2.4(1.1)	2.2(1.0)	2.0(0.0)	2.4(1.3)	2.4(0.8)	2.2(1.3)	2.4(1.2)
仕事量に比べて人手が足りない	3.1(1.4)	3.6(0.8)	5.0(0.0)	2.7(1.1)	3.2(1.5)	3.1(1.2)	3.0(1.3)
精神的にきつい	2.8(1.1)	3.2(1.5)	4.0(0.0)	2.8(1.1)	2.8(1.1)	2.2(0.7)	2.8(1.1)
肉体的にきつい	2.8(1.2)	3.4(1.4)	3.0(0.0)	2.9(1.1)	2.6(1.5)	2.3(0.7)	2.8(1.1)
けがをする危険を感じる	2.2(1.1)	3.0(0.0)	1.0(0.0)	2.3(1.4)	2.4(1.0)	2.1(0.9)	2.3(1.2)
健康面に不安がある	2.2(1.0)	3.2(1.2)	2.0(0.0)	2.4(1.4)	3.2(1.6)	2.3(1.0)	2.4(1.3)
仕事が楽しい	3.6(1.0)	4.4(1.2)	4.0(0.0)	3.9(1.1)	3.2(1.3)	3.7(1.0)	3.8(1.1)
アルバイトは日本語学習に役に立っている	3.6(1.1)	4.0(0.9)	2.0(0.0)	4.2(0.8)	3.6(1.7)	3.5(1.3)	3.9(1.1)
アルバイトは日本文化の理解に役に立っている	3.7(0.9)	4.2(0.7)	3.0(0.0)	4.2(1.0)	3.8(1.5)	3.3(1.2)	3.9(1.1)

IV. まとめ

私費留学生に対するアルバイトの実態調査から、アルバイトに従事する留学生は JASSO の全国調査よりも高い約 8 割に上るが、仕送りを受ける学生が約 6 割おり、アルバイトの目的は必ずしも金銭だけではなく、就労経験を積むことや日本語学習のためでもあることが浮き彫りになった。また、留学生は産業界の高い労働需要から「労働力」として期待される傾向があるが、アルバイトの選択については、留学生が日本語の使用量、同僚との関係や勤務時間といった労働環境のよい職場を主体的に選択する傾向がみられた。よって、留学生自身がアルバイトを単に収入を得る場としてだけでなく、日本での就労経験の場や

日本語の実践練習の場として積極的に活用しており、キャリア形成の一部となり得ていることが示唆される。その背景には、彼らが大学卒業後、ブルーカラーより上の生活を目指すという目標があるのではないかと考えられる。本調査結果を踏まえ、今後は、留学生に個別にインタビュー調査を行い、アルバイトのより具体的な経験や、アルバイトが留学生に与えるキャリア形成面における影響を明らかにしていきたい。

附記

本稿は、韓国日本語教育学会第 61 回国際学術発表大会（2018 年 9 月 15 日 於：韓国 全南大学校）における口頭発表（伊藤春子・比留間洋一「私費留学生のアルバイトを再考する：地方の小規模大学在籍者の事例から」）に加筆・修正を加えたものである。貴重なコメントを頂いた各位にここに記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構 (2016) 「平成 29 年度外国人留学生在籍状況調査結果」
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/_icsFiles/afieldfile/2018/02/23/data17.pdf (参照 2018-5-7)
- 2) 厚生労働省 (2018) 「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ (平成 29 年 10 月末現在)」
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000192073.html> (参照 2018-1-29)
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構 (2016) 「平成 27 度 私費外国人留学生生活実態調査 概要」
http://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/_icsFiles/afieldfile/2016/12/02/ryuj_chosa27p00.pdf (参照 2017-6-30)
- 4) 志甫 啓 (2015) 「外国人留学生の受入れとアルバイトに関する近年の傾向について」
『日本労働研究雑誌』 662 号 pp.98-115
- 5) 内閣府 (2016) 「日本再興戦略 2016—第 4 次産業革命に向けて—」 (平成 28 年 6 月 2 日)
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf (参照 2016-9-7)
- 6) 佐藤 由利子 (2016) 「非漢字圏出身私費留学生のニーズと特徴—日本学生支援機構・私費留学生生活実態調査の分析結果から—」ウェブマガジン『留学交流』Vol.69 pp.1-16